

大洲河川国道事務所版

4年生社会科

「自然災害からくらしを守る」
指導計画（案）

単元「自然災害からくらしを守る」

1.本単元の概要

【学習指導要領（平成 29 年 3 月公示）】

社会 第 4 学年

○内容

（３）自然災害から人々を守る活動について，学習の問題を追究・解決する活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア） 地域の関係機関や人々は，自然災害に対し，様々な協力をして対処してきたことや，今後想定される災害に対し，様々な備えをしていることを理解すること。

（イ） 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして，まとめること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

（ア） 過去に発生した地域の自然災害，関係機関の協力などに着目して，災害から人々を守る活動を捉え，その働きを考え，表現すること。

○内容の取扱い

（２） 内容の（３）については，次のとおり取り扱うものとする。

ア アの（ア）については，地震災害，津波災害，風水害，火山災害，雪害などの中から，過去に県内で発生したものを選択して取り上げること。

イ アの（ア）及びイの（ア）の「関係機関」については，県庁や市役所の働きなどを中心に切り上げ，防災情報の発信，避難体制の確保などの働き，自衛隊など国の機関との関わりを取り上げること。

ウ イの（ア）については，地域で起こり得る災害を想定し，日頃から必要な備えをするなど，自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。



我が国の国土ではさまざまな自然災害が起こりやすく、自然災害の発生は、私たちの生命や、生活、産業に大きな影響を与える可能性があることを知る。

自然災害からくらしを守るため、市・県・国などと住民が協力し、普段から災害への備え（対策や事業）や災害時に対応を行っていることなどを、大洲市を流れる肱川や過去に地域で発生した風水害を題材に調べ、私たちの生活との関わりについて考える。

地域で想定される災害や災害から人々を守る活動を通じ、自分たちにできることなどを考え、選択・判断ができるようにする。

【捉えさせる内容とねらい】

①我が国の国土ではさまざまな風水害が起こりやすいこと

■**肱川流域で起こる可能性のある風水害の概要をつかむ。**

- ・洪水氾濫、土砂災害など

②風水害からくらしを守るため、市・県・国などと住民が協力し、災害への備え（対策や事業）や災害時の対応を行っていること

■**風水害に着目し、公的機関などと住民が取り組む平常時の備えや災害時の対応を捉える。**

- ・平常時：治水対策、河川監視、ハザードマップの作成、避難計画の作成など
- ・災害時：洪水予報や避難指示等の発令、避難誘導、救助活動、復旧活動など

③自分たちにできることなどを考え、選択・判断ができるようにすること

⇒風水害からさまざまな災害への展開

■**防災の観点からよりよい国民生活の実現を目指す態度を育む。**

- ・自然災害から地域を守る平常時・災害発生時の市・県・国などと住民の取り組みの振り返り
- ・風水害に加えて、私たちがさまざまな自然災害に備えてできること

2.本単元の構成

【第1時～第2時】
肱川流域で発生しうる風水害の概要（全体像）をつかむ。

肱川では過去に大きな風水害が発生している。風水害によってどのようなことが起きるだろうか。

【第3時～第8時】
公的機関などと住民が取り組む平常時の備えや災害時の対応を捉える。

風水害からくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのだろうか。

【第9時～第10時】
防災の観点からよりよい国民生活の実現を目指す態度を育む。

平常時や災害時の対策を振り返り、自分たち一人ひとりの備えやできることを考え実行しよう。

3.評価の目標

単元の目標	自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、さまざまな備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとし、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとする。
--------------	--

- 知識・技能** …… ・過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。
- ・調べたことを年表や図表、文などにまとめ、地域の関係機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、さまざまな備えをしていることを理解している。
- 思考・判断・表現** …… ・過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見だし、災害から人々を守る活動について考え表現している。
- ・自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて、その働きを考えたり、学習したことを基に地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えたり選択・判断したりして表現している。
- 主体的な学習態度** …… ・自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
- ・学習したことを基に地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとしている。

4.指導計画（10 時間）

	学習活動・内容	指導のポイント
1 2	〔風水害が起きたら〕 ・自分たちの住む地域ではどのような自然災害が多く起こりやすいのかを、年表や写真を使って学ぶ。 ・地形や気象とのかかわりで風水害が起こることを、地形図等を使って学ぶ。 ・風水害の被害の写真等から、風水害によってさまざまな被害が出ることを学ぶ。	自分たちの住む地域では過去にたびたび風水害が起こってきたことを意識するとともに、風水害は地形や気象の状況と深い関係があることを理解し、災害から暮らしを守る活動と関連付けて考える見通しをもてるようにする。
3 4 5 6 7 8	〔風水害からくらしを守る〕 ・風水害にたいして家庭でどのような備えと対処ができるかを意識する。 ・聞き取り調査や資料調査から、風水害が発生した時には関係機関や住民が協力して、人々の安全を守るために働いていることを学ぶ。 ・聞き取り調査や資料調査から、風水害による被害を減らすために、普段から市や国などが様々な対策や事業を進めていることを学ぶ。 ・聞き取り調査や資料調査から、風水害による被害を減らすために、住民同士の共助が重要な役割を果たすことを学ぶ。	風水害からくらしを守るために、さまざまな人々が発生時の対処と平常時の備えを行っていることを理解する。また、公的機関同士や公的機関と住民、住民同士の連携・協力が大切であることを認識する。
9 10	〔自分はどうするか考えよう〕 ・これまでに学習したことをまとめ、自然災害が起こった時や自然災害に備えて自分たちにできることを考える。	学習したことを自助、共助、公助、互助として整理し、自分自身にできること（自助、共助）を考える。

0. オリエンテーション

「県内のさまざまな自然災害」(1/10)

1.本時の位置づけ	4年生社会科 単元名「自然災害からくらしを守る」(全10時間)の導入の時間として位置づける。
2.指導のポイント	・身の回りで起こりうる自然災害の概要をつかむ。 ・自分たちの住む地域でこれまでに多く発生した自然災害を意識する。
3.学習方法の工夫	・ICT(大型TV)の活用 ・グループ単位での学習
4.本時のねらい	県内で様々な自然災害が起きていることを意識し、自然災害から暮らしを守るための取り組みについて、調べていく見通しをもてるようにする。
5.教科書(東京書籍「新編 新しい社会3・4下」) p.76～77	教科書該当ページ

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料・教材
導入 (5分)	①近年の災害を想起し、本時のめあてをつかむ。 めあて：わたしたちが住んでいる県では、どのような自然災害が起きてきたのでしょうか。		
展開 (35分)	②愛媛県の地形と自然災害の様子を確かめ、気づいたことや考えたことを話し合う。 ・愛媛県は山があって海に面している ・だから自然災害も多いのかな ・最近も大きな水害があったね ・いつ起きるかわからない水害にはどんな取り組みをしているのか ③自分たちの住む地域ではどんな災害が多く起こりやすいのかを問いかける。 ・洪水、風水害 ④地域の「豊かな自然」と「自然災害」の写真を見比べ、気づいたことを話し合う。 ・自然には恩恵と脅威の両面がある	・S54 梅雨前線豪雨による都市河川洪水 ・H13 梅雨前線豪雨による山間部土砂災害、H23年9月台風災害 ・H3年台風19号による高潮 ・H13年芸予地震（愛媛県HP中予地域災害情報DBより）	○愛媛県（四国）の地形図 ○県内の既往災害の写真 ○解説書 p.3-4 「さまざまな自然災害」 ○解説書 p.5-6 「風水害とは」 ○解説書 p.1-2 「豊かな自然と自然災害」
まとめ (5分)	⑤ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑥単元のめあてを伝える。 単元のめあて：風水害から人々を守る活動について、調べてみましょう。		

1. 風水害からくらしを守る

「風水害が起きたら」(2/10)

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害からくらしを守る」(全10時間)の導入の時間として位置づける。
2.指導のポイント	・ 肱川で起こった風水害の年表から、自分たちの住む地域では過去にもたびたび風水害が起こってきたことに気付く。 ・ 地形や気象の要因により風水害が起こることを理解する。
3.学習方法の工夫	・ ICT(大型TV)の活用 ・ グループ単位での学習
4.本時のねらい	自分たちの住む地域では過去にたびたび風水害が起こってきたことを意識するとともに、風水害は地形や気象の状況と深い関係があることを理解し、災害から暮らしを守る活動と関連付けて考える見通しをもてるようにする。
5.教科書(東京書籍「新編 新しい社会3・4下」p.78～79	教科書該当ページ

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書参照）
導入 (5分)	①前回の授業をふりかえる。 ②本時のめあてをつかむ。		
	めあて：風水害によってどのようなことが起きるのでしょうか。		
展開 (35分)	③大洲市で過去にどのような風水害が起こったか、知っていることを話し合う。 ④肱川で過去に起こった水害の年表を見て、気づいたことを話し合う。 ・肱川ではこれまでに何度も水害が起こっている ⑤写真を見て気づいたことを話し合う。 ⑥肱川流域で風水害がなぜ起きるのかを考える。 ・雨が一度にたくさん降ると川から水があふれる ・雨が降ると、中央部の大洲盆地に水が集中しやすい ・河口部が狭いので、水が吐けにくい	・土砂災害の発生にも気づかせる	○肱川既往水害年表 ○平成30年7月豪雨の写真、土砂災害発生個所地図 ○解説書 p.14 「肱川で起きた過去の風水害」 ○解説書 p.37～38 「肱川の風水害の写真」 ○四国の年平均洪水量分布図 ○肱川流域の地形、写真 ○解説書 p.7～13 「我が国で風水害の発生が多い理由」
まとめ (5分)	⑦ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑧まとめを伝える。		
	まとめ：台風や梅雨で雨がたくさん降ると、川の水があふれたり、土砂災害が起こったりする。		

「風水害とわたしたちの生活」（3/10）

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害からくらしを守る」（全10時間）の展開の時間として位置づける。
2.指導のポイント	・風水害がわたしたちのくらしにどのような影響を与えるかを考えることから、学習問題をつくり、学習計画を立てる。
3.学習方法の工夫	・ICT（大型TV）の活用 ・グループ単位での学習
4.本時のねらい	風水害が起きるとわたしたちの生活がどうなるかを問いかけ、学習問題をつくる。
5.教科書（東京書籍 「新編 新しい社会 3・4下」）p.80～81	教科書該当ページ

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書参照）
導入 (5分)	①前回の授業をふりかえる。 ②めあてをつかむ。		
	めあて：風水害によって、わたしたちのくらしはどうなるかを考え、学習問題をつくろう。		
展開 (35分)	③前時と本時の写真から、風水害がわたしたちのくらしに与える影響や気づいたことを話し合う。 ・家や道路が水に浸かる ・外に出られない ・電気や水道が使えるなくなる ・ケガをしたり、死んだりするかもしれない		○平成30年7月豪雨の写真
	④気づきや疑問から学習問題をつくる。		
	学習問題：風水害からくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのでしょうか。		
	⑤学習問題の「だれが」「どのようなこと」を予想する。 ⑥予想にもとづいて学習計画を立てる。 ・調べること ・調べ方 ・まとめ方	・「起きる前」と「起きた時」に注意を促す。	
まとめ (5分)	⑦次回までに調べてくることを確認する、または次回以降の学習の流れを伝える。		

「家庭でそなえているもの」(4/10)

※教科書のままでも可

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害からくらしを守る」(全10時間)の展開の時間として位置づける。
2.指導のポイント	・風水害による被害を減らすために家庭で行われていることを調べ、発表し合う。 ・気象情報や避難情報の集め方、非常用持ち出し袋の中身や災害用伝言ダイヤルなど、自助に必要な知識を得る。
3.学習方法の工夫	・ICT(大型TV)の活用 ・グループ単位での学習 ・防災グッズ等の活用
4.本時のねらい	風水害にたいして家庭ではどのような備えと対処ができるかを意識する。平常時の準備と災害時の対策があることを知る。
5.教科書(東京書籍「新編 新しい社会3・4下」p.82～83	教科書該当ページ

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
導入 (05 分)	①前回の授業をふりかえる ②めあてをつかむ		
	めあて：風水害からくらしを守るために、家庭ではどのような取り組みをしているか調べよう。		
展開 (35 分)	③家庭では風水害にたいしてどのような取り組みをしているか、調べてきたことを発表し合う。 ・気象情報や避難情報に気をつける ・避難場所を決めている ・早めに避難する ・非常用持ち出し袋を準備している ④家庭での取り組みを、風水害が起こる前の備えと、起きた時の対策に分類する。 ⑤気象情報や避難情報の集め方を確認する。(備え) ⑥非常用持ち出し袋に入れるものを考え、教科書で確認する。(備え) ⑦家族と連絡を取る手段を考え、教科書で確認する（災害用伝言ダイヤル）。(対策)	・防災グッズを活用する	○データ放送の画像等 ○教科書 p.82 ○大洲市市民防災読本【統合型防災マップ】非常時持出袋の準備&チェック ○教科書 p.83
まとめ (5 分)	⑧ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑨まとめを伝える。		
	まとめ：風水害にそなえて自分の家でできることや、風水害が起こった時にどうするかを、家族と話し合っておこう。		

「学校や通学路でそなえているもの」(5/10)

※教科書のままでも可

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害からくらしを守る」(全10時間)の展開の時間として位置づける。
2.指導のポイント	・学校という身近な場所も自然災害への備えをしていることや、避難所としての機能を持っていることに気付かせる。 ・避難所の場所など、自助に必要な知識を得る。
3.学習方法の工夫	・ICT(大型TV)の活用 ・グループ単位での学習 ・ハザードマップの活用 ・インタビュー等の調査活動
4.本時のねらい	風水害にたいして公的施設がどのような備えと対策をしているのか意識する。
5.教科書(東京書籍「新編 新しい社会3・4下」p.84～85)	教科書該当ページ

※大洲市防災マップは、大洲市のHPよりダウンロードすることができます。

※肱川の浸水想定区域図は、大洲河川国道事務所HPよりダウンロードすることができます。

6. 学習の過程

[illegible]

「国や市の取り組み」（6/10）

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害から暮らしを守る」（全10時間）の展開の時間として位置づける。
2.指導のポイント	・風水害から暮らしを守るために、国や市が平常時および発災時にどのような取り組みをしているか調べて話し合う。
3.学習方法の工夫	・ICT（大型TV）の活用 ・グループ単位での学習 ・インタビュー等の調査活動
4.本時のねらい	自然災害から暮らしを守るために、国や市がさまざまな取り組みを協力して行っていることを理解する。
5.教科書（東京書籍 「新編 新しい社会 3・4下」）p.86～ 87, 96～97	教科書該当ページ

※大洲市防災マップは、大洲市の HP よりダウンロードすることができます。

※肱川の浸水想定区域図は、大洲河川国道事務所 HP よりダウンロードすることができます。

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
導入 (05 分)	①前回の授業をふりかえる ②めあてをつかむ		
	めあて：風水害からくらしを守るために、国や市はどのような取り組みをしているか調べよう。		
展開 (35 分)	③風水害が起きた時に国や市はどのような取り組みをしているか、写真を見て話し合う。 ・ボートで人を助ける（消防） ・あふれた水をポンプで吸い出す（国土交通省） ・情報を集めて指示を出す（国土交通省） ・水や必要な物を持ってくる（自衛隊） ・避難所を設置する（市） ④風水害が起きる前の国や市の取り組みにはどのようなものがあるか、写真を見て話し合う。 ・堤防やダム建設などの河川整備 ・川の監視、洪水の予測 ・浸水想定区域図の作成 ・防災計画の作成		○平成 30 年 7 月豪雨の写真 ○解説書 p.15～18 「国や市で行われている治水対策」 ○解説書 p.48 「風水害に備えて普段から働く人々」 ○国土交通省 川の防災情報 HP ○大洲市市民防災読本【統合型防災マップ】
まとめ (5 分)	⑤ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑥まとめを伝える。		
	まとめ：風水害が起きる前も起きた時も、国や市はわたしたちのくらしを守るためにさまざまな取り組みをしている。		

「市と住民の協力」（7/10）

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害からくらしを守る」（全10時間）の展開の時間として位置づける。
2.指導のポイント	・市と地域住民は風水害に備えてどのような取り組みをしているか調べて話し合う。
3.学習方法の工夫	・ICT（大型TV）の活用 ・グループ単位での学習 ・インタビュー等の調査活動
4.本時のねらい	市が作成する防災対策（防災計画の作成や防災訓練の実施）には地域住民の連携・協力が欠かせないことを理解する。 水防団の働きを理解する。
5.教科書（東京書籍「新編 新しい社会3・4下」）p.88～89	教科書該当ページ

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
導入 (05 分)	①前回の授業をふりかえる ②めあてをつかむ		
	めあて：風水害からくらしを守るために、市と住民はどのような取り組みをしているか調べよう。		
展開 (35 分)	③市と地域住民はどのように連携しているか、インタビューや調査活動をしてわかったことを発表し合う。 ・市役所の人と地域の代表の人が話し合いをしている	・市と住民の協力が大切であることを捉えさせる。	○教科書 p.88～89
	④市と地域住民は連携・協力してどのような準備や対策をしているか、わかったことを発表し合う。 ・市役所の人と地域住民と一緒に避難行動計画を立てている ⑤水防団（消防団）の活動写真を見て、わかったことを話し合う。	・平成 30 年 7 月豪雨災害の大洲市・西予市の消防団の事例	○平成 30 年 7 月豪雨の写真 ○解説書 p.54 「消防団（水防団）とは」
まとめ (5 分)	⑥ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑦まとめを伝える。		
	まとめ：大洲市は地域の人と協力して防災対策をしている。 水防団の人たちは風水害が起きそうな時に避難を呼びかけたり、土のうを積んで水をせき止めたりする。		

「住民どうしの協力」（８/１０）

1.本時の位置づけ	４年生社会「自然災害からくらしを守る」（全 10 時間）の展開の時間として位置づける。
2.指導のポイント	・地域住民どうしは風水害に備えてどのような取り組みをしているか調べて話し合う。 ・地域の住民で組織された自主防災組織が、人命や財産への被害を防止あるいは軽減する活動を行うことを知る。
3.学習方法の工夫	・ICT（大型 TV）の活用 ・グループ単位での学習 ・インタビュー等の調査活動
4.本時のねらい	風水害からくらしを守るために地域住民が働いていることを知り、共助の大切さを理解する。
5.教科書（東京書籍 「新編 新しい社会 3・4 下」）p.90～91	教科書該当ページ

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
導入 (05分)	①前回の授業をふりかえる ②めあてをつかむ		
	めあて：風水害からくらしを守るために、住民どうしはどのような取り組みをしているか調べよう。		
展開 (35分)	③住民どうしが協力してつくっている地域の防災組織について、インタビューや調査活動をしてわかったことを発表し合う。 ④自主防災組織はなぜ作られたのか考えて話し合う。 ⑤自主防災組織を機能させるには、日頃からどんな関りを住民同士がしていかなくてはならないか話し合う。 ・隣にどんな人が住んでいるか確かめる ・防災倉庫の中身を一緒に確かめておく ⑥自主防災組織にはどのような組織班があって、どんな役割をしているか調べてわかったことを整理する。	・住民同士の共助が大切であることを捉えさせる。	○三善地区自主防災組織の働き（インタビュー記事）、写真 ○解説書 p.51～54 「自主防災組織一覧」 ○解説書 p.20～22 「風水害が発生した際に働く人々」 ○教科書 p.91
まとめ (5分)	⑦ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑧まとめを伝える。		
	まとめ：地域に住む人どうしで避難するとき声をかけあったり、助け合ったりすることが大切。		

「風水害からくらしを守る取り組みをまとめる」（9/10）

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害からくらしを守る」（全10時間）のまとめの時間として位置づける。
2.指導のポイント	・聞き取り調査や地図や年表などの資料から読み取った情報を、時間の経過に沿って年表などに整理したり、関係機関相互の協力関係を図表などにまとめたりする。 ・これまで調べたことを相互に関連付けるようにする。 ・まとめたことをもとに説明したり話し合ったりして、自分の考えを表現するようにする。
3.学習方法の工夫	・ICT（大型TV）の活用 ・グループ単位での学習
4.本時のねらい	これまでに学習したことをまとめ、自助、共助、公助、互助について理解するとともに、日頃から自然災害への備えに関心をもち、災害のときの自分の行動を考えることの大切さを認識する。
5.教科書（東京書籍「新編 新しい社会3・4下」）p.92～93	教科書該当ページ

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
導入 (05分)	①前回の授業をふりかえる ②めあてをつかむ めあて：風水害からくらしを守るための、家庭や学校、市や地いき住民の取り組みについてまとめよう。		
展開 (35分)	③学習問題をもとに、家や学校、国や市、地域の取り組みについてわかったことや考えたことをシートにまとめる。 ・一人ひとりが取り組むこと ・地いきや身近な人と一緒に取り組むこと ・国や市などが取り組むこと ④それぞれの取り組みを比べて、気づいたことを話し合う。 ・災害が起きる前の備えと、起きた時の対策がある ・まずは自分の身は自分で守ることが大切 ⑤風水害以外の災害との共通点を考え、話し合う。	・これまで学習したことを自助、共助、公助、（互助）に分けて整理する。 ・備えのほとんどが地震などの他の災害にも重要なことに気づかせる。	○ワークシート「風水害からくらしを守る取り組みまとめシート」 ○プリント「風水害に対する心がけ・緊急時の心がけ」 ○ワークシート「風水害への備えチェックリスト」
まとめ (5分)	⑥ふりかえりをノートにまとめさせる。 ⑦まとめを伝える。 まとめ：風水害からくらしを守るために、自分たちにできることを考え、家族や地域の人たちと協力しながら行動していくことが大切。		

「ひなんシミュレーション」(10/10)

1.本時の位置づけ	4年生社会「自然災害からくらしを守る」(全10時間)のまとめの時間として位置づける。
2.指導のポイント	・防災カードゲームを使って、実際に風水害等の自然災害が起きた時の状況を想像し、自分の行動を具体的に考える。
3.学習方法の工夫	・ICT(大型TV)の活用 ・グループ単位での学習 ・防災カードゲームの活用
4.本時のねらい	自然災害が起きた時のことを具体的に想像し、よく考えて行動することの大切さを再確認する。
5.教科書(東京書籍「新編 新しい社会3・4下」) p.94～95	教科書該当ページ

6.学習の過程

流れ	学習活動・内容	指導上の留意事項	資料（解説書）
導入 (05分)	①前回の授業を振り返る。 ②めあてを伝える めあて：風水害が起きたとき、自分はどうするか考えてみよう。		
展開 (35分)	③風水害からくらしを守るために、自分たちにできることを話し合う。 ④グループに分かれて、防災カードゲーム「このつぎなにがおきるかな？」（なにがおきるかならべてみよう！防災七ならべ）をする。 ⑤ゲームをして気づいたことを話し合う。 ・自分の家や通学路が、危ない場所かどうか、事前に調べることが大切 ・洪水が起こる前に早く逃げるのが大切 ・家の2階でも大丈夫とは言えない ・車で道路の水たまりに入ってはいけない	・自分でできること、やるべきことを具体的に考えさせる	○解説書 p.62「風水害時にできることを考えよう」 ○防災カードゲーム「このつぎなにがおきるかな？」
まとめ (5分)	⑥単元のまとめとして、これまでの学習をふりかえる。 ⑦まとめを伝える。 まとめ：風水害からくらしを守るために、家族や地域の人たちと協力して自分たちにできることをやっいていこう。		

こくどころつうしょう しこくちほうせいびきょく
国土交通省 四国地方整備局

おおすかせんこくどうじむしょ
大洲河川国道事務所

〒795-8512 愛媛県大洲市中村210

TEL. 0893-24-5188（工務第一課）

<http://www.skr.mlit.go.jp/oozu/>

